

教えるための教材と 学ぶための教材の違い

教えるための教材の特徴

【その1、学習者の言語能力を無視した構成の弊害】

- 入職当時の受験者の言語能力は、日本人の小学校低学年レベルしかない。さらに、会話力は低学年よりも低く、「意思疎通能力」は不十分なものだ。このことは、実際に対応している関係者が一番実感していることだ。
- このような言語能力の受験者に、日本人の中学並びに高校で使用するような国語教育的なものを与えても、受験者が意味理解することは無く、ただただ混乱するだけだ。そして、教材の構成が【易しいものから難しいものへ】の考えに基づいた文構成でない限り、「切り貼りの知識」を暗記するしかなく、言語能力を向上させる教材として成り得ないことは明白だ。そのために、その弊害は【日本語嫌い】を受験者に抱かせることになる。

【その2、日本人感覚の表現文で構成された教材の弊害】

- 外国人に対する教材の検証をしないままに、「国語教育の方法」を基にして作られた教材は、受験者から見れば教材1ページ目から対応できない。そのため、教育指導者は1ページ目から、【教える教育】を強く持たざるを得なくなる。そして、2ページ目以降も全てその姿勢を取らざるを得ない。即ち、このような教材の製作者が、外国人に対する教材の検証を行っていない証拠だ。「机上の空論を教材化した」だけで、その教材の教育効果を念頭から考えていない。この日本人感覚で作られた教材は、表1で表した人間の概念領域を、全く理解しないままに作られたものだ。
- 言語教育教材を製作する大前提は、表1の概念領域を当然のことながら理解して作るものだ。しかしながら、現在の介護・看護分野に配布されている事業団教材は、全くこのことを認識できていない。よって、教材製作者が全くの素人集団であることを如実に表している。その結果が、表2の国家試験合格率に顕著に表れている。このような教材の最大の弊害は「教育効果を上げない」という点にある。

表1 普通概念領域



※「普通概念領域」とは

人間が共通して概念を有している領域を言う。具象物は具体的に視覚と触覚でその物を認識でき、そこから発する言語は異なるが、概念は同一であるために、普通概念と言う。例)「男・女、机・いす、島・山、1・2」は、日本語と外国語が異なるだけであり、認識度は共通している。

※「異文化人感覚言語」とは

異なった文化の人が外国語を学ぶ場合に、理解困難な特殊な領域の言語を示す。その国の特有な表現法は、外国人から見ると、母国に無い独特の表現法のために、異文化人感覚言語と言える。

※「日本人感覚言語」とは

日本文化に基づいた日本人特有の表現を言う。例)「わび・さび」や「やり・もらい」などの謙讓表現などは外国語に無いため、特有の表現法だ。

※「特殊概念領域」とは

その文化の固有で特殊な概念を有する領域のことを言う。即ち、世界各国各々の国が固有の特殊概念を有しており、言語教育上最も難解な領域を言う。(表1参照)

表2 国家試験合格者数と合格率

2012 年	95 名中 36 名	37.9%
2013 年	322 名中 128 名	39.8%

【その3、応用性の無い教材】

表 3

教材	種類・特徴	対応能力
事業団教材	語彙習得型 暗記法	なし
【みんなの日本語】	日本語文習得型 パターン教育	パターンを習得している ために対応力が乏しい
【100万人の日本語】	日本語文理解型 理解教育	理解力を伴っているため、 対応力と同時に 応用力がある

- 現在、介護・看護分野で受験者用教材として使用されている教材には、大きく分けて三種類に分類することができる。一つは「語彙習得型」教材であり、もう一つは「日本語文習得型」教材だ。そして、最後に「日本語文理解型」教材がある。外国語習得のための教材は、三番目の「日本語文理解型」教材が望ましい。（表3参照）

- 事業団教材は「語彙習得型」教材で、暗記法であるため対応能力がほとんど身につかないと言える。そして、日本語教師が使用している教材の中で多く使われているものが、「みんなの日本語」であり、これは「日本語文習得型」の教材と言える。即ち、この教材は【パターン教育】の代表的なもので、その文に対しては理解できても、他の文に対応できる能力が身につかないため、教材にでてきたパターンが生じない限り、反応できないという特徴がある。

- 最後に、「日本語文理解型」の教材とは、「100万人の日本語」が挙げられる。この教材は学習段階において異なるが、【一貫した日本語の規則性と用法、並びに、運用方法】を例文をもって理解し、習得する方法であるために、どのような場合においても対応能力が身につく教材と言える。よって、どの型の教材を選択するかにより、受験者の言語能力は大きく左右される。また、特徴的な点を挙げれば、対応能力だけでなく、応用能力が必然的に身につくために、受験者の職務能力も向上することが挙げられる。

【その4、未習の内容を中心とした教材の弊害】

- 既習のものを基として、今まで学んでないもの（未知領域）を学ばせる教材であれば、類推しながらでも、理解はある程度できる。
- 最初から未知のものを基にして、全く新しい未知のものを覚える教材は、日本語教育に限らず全ての領域において、労力と時間がかかることは誰でも分かることだ。教育の原則である【既知から未知へ】を認識すべきだ。

- その代表例として紹介できる教材は、その3で述べた「語彙習得型」教材だ。即ち、多くの介護・看護分野で使用されている事業団教材は、「外国語としての日本語教育」から専門的に評価すれば、最悪の教材を使用していると断言できる。その証として表2の通り、国家試験合格率は、30%台と低い数値に留まっていることでも分かる。

< 到達度試験参加者 学習近況報告 !! >

- 考察を参考に、その通りに進めていっている。自分達の言語能力の数値をコピーして受験者に手渡し、自分の弱点を把握させるやり方をしている。テキストについて受験者に質問してみたら、当初は「100万人の日本語NO1は簡単だ」と言っていた。しかし、テストをさせると解けない状態だった。その結果、受験者が自分の本当の日本語力が明らかとなり、曖昧な「分かったつもり状態」から、「理解して身につける状態」に変化したことが最大のメリット。（岩手県・K施設）

- 「100万人の日本語」で学習した結果、日本語は順調で、業務では介護記録もこなし、話もよくできる。どうしてもレベルの低い人が、高い人に仕事中でも頼ってしまう傾向があったため、部署を別々にさせて現在、業務をしている。そうすることで、一人でやらないといけないという気持ちが強くなり、日本語力も伸びて到達度試験の数値も伸びてきた。やはり、教材の違いが明らかに教育効果に表れている。（和歌山県・A施設）

事業団教材の効果に疑問の声！！

「受験者の能力に合っていない 事業団の教材に困惑？！」

- 一昨年の12月に候補者が入職してから、すぐに事業団から沢山の教材が送られてきた。最初はどのように教材を使って良いのか分からず戸惑ったけど、学習計画表を目安にして勉強させている。
- しかし、正直、受験者の日本語力と教材の内容が合っていないために、教え方にどうしたら良いのか困っている。また、受験者も最初から画数の多い漢字が沢山出ているので、それを覚えるために四苦八苦している姿を見ると、これで本当に力がつくのか、最近特に、月報などを読んで疑問が膨らんできている。
- 施設としては受け入れた以上、合格してもらわないと労力と費用が無駄になるので、何としても日本語力を身につけさせたい。
このままの状態では、素人ながら合格させることは難しいと今から予想できるので、他の方法を考えようとしているのが本音だ。
- 事業団から教材が送られてくるので、施設ではその教材を使って学習させるのが義務だと考えていたが、色々な情報からは、決して義務ではなく、施設で良い教材と考えたものを使って構わないようだ。最初から情報を正しく理解していなかったの、すでに二年間、事業団だけの教材を使ってきたことに後悔している。

(静岡県・K施設)

「沢山送られてくるし、テストも あるので、一応やっている！」

- 事業団教材を使用している。沢山、送られて来るので、他の教材を使う余裕が正直、無い。
12月に入職した候補者については、今のところ事業団の教材で不自由さもないし、日本語の理解度も今のところは問題点を感じられない。
しかし、国家試験の合格率を見る限り、この教材だけで本当に受かるのかは疑問に思っている。
- 先月の月報で、教材の重要性について書かれていたので、参考にしている。受験勉強に必要な勉強をする前に、基本的な日本語力をしっかりと身につけない限り、合格はできないと感じているので、教材の見直しも今後必要だろう。
正直言って、素人の職員が送られてきた教材を見ても、とても受験者の参考になる教材とは思えないし、漢字を覚えさせるだけのワークブックにしか、感じられない。(愛知県・D施設)

「事業団の教材を使わず、 二名中一名が合格！！」

- 当施設では毎年二名ずつ受け入れをして、すでに六名の候補者がいる。最初の二名の時に、事業団から送られてくる教材を、職員が内容の吟味をして、「外国人用の教材としてはこれは不適切な教材だ」との意見が多くを占めたために、この三年間、事業団の教材は送られてきても一切、使用していない。
- その代わりに、日本語教師が推薦した教材を使って学習させてきた。そして、二名中一名が自己採点で不合格となったことは、とても残念に思っている。しかし、二名とも日本語力はある程度の会話が身につく、実務に必要な力は徐々に身につけてきているために、施設としては頼もしい戦力になってきていることが、とても嬉しく思う。残りの候補者には、より合格に近づくために教育効果の高い勉強方法を今探しているところだ。(神奈川県・A施設)

「延長しても不合格で、帰国！！」

- 延長の候補者がいたが、自己採点の結果、点数届かず帰国する予定でいる。一年間延長して事業団教材だけで頑張って学習していた。しかし、途中で帰国したい気持ちが強く、精神的に受かりたいというより、帰りたい気持ちが勝っていた。
- この延長の候補者を何とか合格させたいという施設の方針で、事業団の教材を使って集中的に指導してきたので、新しく受け入れをしてこなかった。なぜ、こういう結果になったかの原因を真剣に考えたい。

(大阪府・Y施設)

「事業団の教材は効果が見えない！」

- 送られてくる事業団の教材を使っている。さらに、半強制的にテストもあるので、計画に従って指示されるままに勉強を進めている。
- 12月に入職した候補者は、学習の効果がまだ分からないが、以前から受け入れている候補者については、日本語学習面において、職員の見ても、残念ながら教育効果や教材を使っているのを感じられることはない。
これで本当に大丈夫なのだろうか、不安だ。

(宮城県・S施設)

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は、平成 24 年度国家試験で受験者数 95 名中 36 名が合格し、その 36 名中 19 名 (52.7%) がこの【到達度試験】を受けた受験者でした。 25 年度では、128 名の国家試験合格者のうち、【到達度試験】参加者は 76 名で、合格者は 68 名 (89.4%) でした。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。 さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで実践力のある要員として育成することを目的としています。 定期的試験結果を数値化し、職員に指導の仕方を考察票でお送りしておりますので、安心してご指導頂けます。 是非、ご参加下さい。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職域言語能力を養う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」(漢字 熟語)と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 (語彙力・文意力)に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活言語能力を養う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎言語能力を養う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字(ひらがな・カタカナ・ 漢字)・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回	75 %	受験者の現状の日本語能力を観る。		

【国家試験受験能力到達度試験】参加のおすすめ

- 1、受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。
- 2、言語能力の到達度チェックは、2ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。
- 3、受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率高めることとなります。この理由から、本試験のEレベル～国試3レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。

【到達度試験段階】

3段階
2段階
1段階
F段階
E段階
D段階
C段階
B段階
A段階
初回

＜合格能力育成＞

- 三段階終了時には、「日本人の専門学校卒の言語能力」を有し、国家試験問題に十二分に対応できる能力と同時に、専門知識を着実に身につければ、国家試験合格能力が十分に身につけられる。

＜受験能力育成＞

- D段階を終了すれば、日本語の基礎力と生活上に必要な言語能力が身につく、「日本人の中学校2年生と同様の言語能力」が養われる。また、会話力だけでなく、読解力と構文力も同様になる。

※ 学習段階内容と特徴は前頁の【国家試験受験能力到達度試験の特徴】を参照

＜受験能力＋合格能力育成費用＞

190,030 円

@17,500 円 × 10 回 + 教材 (15,030 円)

※ 確実に言語能力を定着させるため、再試験を行います。再試験料金は受験料に含まれます。

【国家試験受験能力到達度】試験と【教材】申し込み書

＜送付先：FAX 03-6677-0632＞

施設名：

ご担当者名：

所在地：〒

電話：

FAX：

メールアドレス：

- 消費税の関係により、4月1日から10%値上げします。

＜受験人数＞ 名

＜受験者の国籍＞ インドネシア（ 名） フィリピン（ 名）

※ 下記の料金は受験者1名あたりの金額です。該当するレベルを○で囲んで下さい。

＜単発受験＞

初回・レベルA・B・C・D・E・F・国試1・2・3 @20,000 円 × 合計 円

＜継続受験＞

初回から全10回(教材費・考察指導料込み) 190,030 円 × 名 合計金額 円

ことばの研究社 〒701-0102 岡山県倉敷市庄新町 9-4-12

電話：086-451-8155 FAX：086-451-4244 メール：kotoba_ken@yahoo.co.jp

